

第4学年 国語科学習指導案

日時 令和3年7月14日(水)
対象 第4学年1組 34名
指導者 赤池 弥生

1 単元名

『夏の楽しみ』

2 単元の目標

○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにする。

【知識及び技能】

○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。

【思考力、判断力、表現力等】

○積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、夏の様子を俳句で表そうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉の性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	・「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。 ・見つけた言葉がどのように分類されるかを伝え合っている。	・積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、夏の様子を俳句で表している。

4 単元について

(1) 教材観

この単元は、4月単元「春の楽しみ」に続く「季節の言葉」の二つ目である。教科書の例題に挙げられている七夕や盆踊りなど、児童に経験のあるものを中心に、夏の行事や夏の様子に関する言葉にたくさん触れ、それを俳句作りに生かしていきたい。また、個人による経験の差で知っている行事も違ってくるので、挿絵や俳句の解説を通して記憶を呼び覚ましたり、知識を与えたりしたい。

季節の行事や様子を表す言葉を集める活動は「春の楽しみ」で経験しており、今回も抵抗なく活動することができるであろうと考えた。俳句作りの活動につなげる意味でも、行事に関わる言葉や様子を表す言葉を広げていけたら単元の目標に迫れるのではないかと考えている。

(2) 児童の実態

物語や説明文などの長い教材のときには、必ず意味調べを課題として取り入れ語彙を増やす活動をしている。しかし、子供たちの実生活を見てみると、直接体験する機会が少なくなり、行事や様子を

表す言葉を表現するのにも差が出てくると考えた。そこで、一人ではなかなか思いつかない、思いついても言葉として伝えられないという児童にも意欲的に活動できるよう、途中でタブレットで検索することで語彙をさらに増やせると考えた。また、個人で集めた語彙をグループで共有することでさらに語彙を豊かにすることができると思った。

タブレットに関しては、意欲的に取り組む児童がほとんどである。分からないことがあると自然に、お互いに聞き合ったり、使い方を教え合って理解している姿も多く見られる。

5 ICTの活用の経過と手順

ICTの活用は、各教科で少しずつ取り入れてきた。タブレットも同様で、理科のヘチマの観察でカメラ機能を使ったり春の生き物を探すために検索機能を使ったりしてきた。その場ですぐに身に付けられる機能はその教科の時間を使ってきたが、タイピング練習や、今回使用するジャムボード等大きな操作を要するものは、総合的な学習の時間で学習してきた。

今回の学習内容としては、今までの経験上で出てくる語彙は限られているので、その後にタブレットを使用して夏を表す言葉を個々に探し、それをグループで共有し種類ごとに分け、最後に俳句を作るという学習計画を立てた。「春の楽しみ」では、意図的にアンプラグドで付箋を使用し、グループで話し合いをしながら付箋を貼ったり剥がしたりして分類した。今回はそのアナログだった分け方を、デジタル方式に変えGoogle Jamboardを使って交流することを考えた。取り組み方は、前回と同じで、個々で夏を表す語彙を見付けそれをグループで共有し分類する。また、付箋をGoogle JamboardというICT機能を活用し、タブレット上で話し合いながら付箋を動かしていくという方法を取り入れることで、タブレットの活用方法も増やせると考えた。

- ①GoogleドライブにGoogle Jamboardを、各班ごとに作成する。
- ②①のデータを共有ドライブに入れておく。
- ③各班で自分の班のGoogle Jamboardを開いて、編集する。

6 単元の指導と評価の計画（2時間扱い 本時 1 / 2）

次	時	学習活動	○評価規準【観点】★ICTの活用
一	1 本 時	夏の行事や様子に興味をもち、それに関わる言葉を集める。	○夏の行事や様子を表す言葉に興味をもち、それに関わる言葉を集め、交流している。 【知・技】 ★Google Jamboard ★電子黒板
二	2	夏の風景や様子を表した俳句を作り、友達と伝え合う。	○前時で集めた言葉から、俳句にするものを選び、その様子を俳句に表して、友達と伝え合っている。 ○友達と感想を伝え合うことを通して、自分の書いたもののよさを見付けている。 【態】【思・判・表】

7 本時の指導 (1 / 2)

	学習活動	○評価【観点】 ※指導上の留意点 ★ICTの活用
導 入	1 本時のめあてを確認する。	
	夏の行事や様子を表す言葉を集めよう。	
7 分	2 授業の流れを確認する。 ①タブレットの Google Jamboard に夏の様子を表す言葉を付箋機能を使って順番に書き出す。 ②思いつかないときには、タブレットの検索機能を使って夏の様子を表す言葉を検索し書き足す。 ③出てきた言葉を、分類する。 ④分類した言葉を、グループごとに発表する。	※手順を掲示する。 ※個人の付箋の色は、担任があらかじめ指定して知らせておく。 ※キーボードは使用せず、検索も Google Jamboard への書き込みも音声入力または仮名入力とする。 ※自分が集めた言葉がなくなったときには、グループで教え合ってもよい。 ※発表者はあらかじめ決めておく。 ★Google Jamboard
展 開 33 分	3 Google Jamboard に夏の様子を表す言葉を書き込み共有する。 ・Google Jamboard の付箋に夏の様子を表す言葉を順番に書き出す。 ・タブレットの検索機能を使って、言葉を付け足す。 4 Google Jamboard に書かれた言葉をグループで話し合いながら分類する。 5 テレビ画面を見ながら全体交流をする。 ・グループの発表者が、どのように分類したのかを説明する。	○ 夏の行事や様子に興味をもち、言葉を集めている。 ○ 集めた言葉を、グループで話し合いながら分類している。 【知・技】 ※教師がテレビ画面に各グループの Google Jamboard 画面を映し出す。 ※代表者は前に出て発表する。 ★Google Jamboard ★電子黒板
ま と め 5 分	6 振り返りをワークシートに書く。 ・夏の言葉を集めたり、分類したりして思ったことを振り返る。	

成果と課題、指導・講評 【R3 4年 研究授業】**1. タブレットを使うことで教科において個別最適化につながったか。**

- 自分のペースで「ふせん」を増やすことができた。
- 思いつかない児童は、その場で検索することができた。
- 個々に語彙を増やすことができた。
- 語彙が豊かな児童には、個別にシートを作り分類整理していけるようになるとよかった。

2. タブレットを使うことで友達同士の考えを共有することにつながったか。

- 考えの共有はできた。
- 一人ずつ順番に入力していくやり方が、意欲的に言葉を集めることにつながっていた。
- 検索機能を使っている児童を取り上げていくことで、全体で検索機能のよさや、新たな語彙を増やせることにつながったのではないか。
- 上手に分類整理しているグループを取り上げると、考えを共有することを深めることにつながったのではないか。

3. その他

- 一人1台タブレットがあることで主体的な活動につながった。
- Google Jamboard の操作がスムーズであった。
- 語彙とその意味（イメージ）がつかないものに関しては、別時間を設けて検索させるとさらに知識をふかめられるのではないか。
- タブレットを忘れて使えないというときの影響が大きい。

指導・講評 NPO みんなのコード 福田 晴一 先生

- ・直接体験することが少なくなり、行事や様子を表す言葉を表現するのにも差が出ている。タブレットで検索したり Google Jamboard で共有することで語彙をさらに増やせるのではないか。
- ・タブレットで検索することが情報収集。アナログでやることはプロセス評価。両方使えるとよい。
- ・分類することが本時の一番の盛り上がりだった。話し合い、役割分担、個人作業の流れが協働的な学びのキーワードではないか。
- ・徐々に輪番方式ではなく、同時進行での作業ができるようになるとよい。